

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	23	大学等名	共愛学園前橋国際大学
テーマ	テーマⅠ・Ⅱ複合型		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、学修成果指標「共愛12の力」の策定、その指標に沿って学生が自らの学びによる成長を自己評価する際の評価規準となる「共愛コモンループリック」、学生が自律的に学びに取り組むことを支援するeポートフォリオ「KYOAI Career Gate」（エビデンスベースの自己評価システム。以下、「KCG」という）の構築など、本事業実施による成果が上げられている。さらに、これらの取組と成果が、学修成果指標の明示（Plan）、アクティブ・ラーニング型授業の質保証（Do）、KCG及び外部評価テスト等による成果の可視化（Check）、これに基づく教職員の共通理解及び資質能力の向上（FD・SD・PD）と教育改善の取組の促進（Act）というPDCAサイクルの確立にも機能的に結び付けられていることは高く評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、学修質保証システム基盤整備、学修成果の明示、アクティブ・ラーニングの質保証、学修成果の可視化による主体的学修の支援の充実及び学修成果達成度による教育改善といった項目において、計画に基づき着実に事業が実施されており、高く評価できる。

事業定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、教職員全員が参加する「スタッフ会議」が重要事項を決定するという、学長を中心として整備された教学マネジメント体制の下、本事業の年度ごとの方針や計画を決定する「AP推進委員会」が発足されている。さらに、AP事務局が内部設置されている「APワーキンググループ」が各論決定及び各センターとの連携・調整を行い、高等教育研究センターや図書館センター等の諸機関が各論推進を行うという、明確に整理された実施体制が構築されていることも高く評価できる。また、前述のPDCAサイクルについて、成績や授業アンケートなど学内で蓄積されてきたデータと外部テスト等のデータなどが全て個人と紐づけられたデータベースが構築されつつあり、更に効果的な学修成果の確認（Check）に向けて発展していることも高く評価できる。

事業成果の普及については、外部からの評価と注目が高く、教育関係のマスメディアにも度々取り上げられていることから、本事業における取組を波及させた効果は大きいと考えられる。補助期間中の、88大学・機関、300名以上の視察者の受入がその成果の表れである。加えて、学長が様々な講演・FDに招へいされ、本事業の取組を含めた講演を行ってきたこともよく知られたことであり、高く評価できる。